

日本グループ・ダイナミクス学会会報

JGDA ぐるだいのニュース

The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

第 55 号

(2019年8月20日)

発行所：立正大学心理学部 西田公昭研究室

日本グループ・ダイナミクス学会

E-mail：sec-general@groupdynamics.gr.jp

発行人：西田公昭 編集担当：杉浦淳吉

目次

★★★会長挨拶 beyond する学会を目指す！★★★	2
★★★日本グループ・ダイナミクス学会 第66回大会開催の挨拶 ★★★	2
★★★富山大学での大会に向けて★★★	4
★★★新運営体制のご案内★★★	6
★★★事務局からのお知らせ ★★★	8
★★★グルダイ学会関係連絡先 ★★★	10

★★★会長挨拶 beyond する学会を目指す！★★★

西田公昭 (立正大学)

会員の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて既に ML では挨拶させていたのですが、この紙面を借りまして甚だ簡単にはありませんが、改めて再任のご挨拶をさせていただきます。

まずは、これまでもスローガンとして掲げてきた Beyond Academism を今期も推進して参りたい所存です。なぜなら、それこそが本学会の活性化に欠かせないと考えているからです。そのために、どんな学会にしていくべきかを議論させてください。そして、Academism を越えた向こうにある研究者の活動の場に、多くの会員が立ってもらうために、学会として何ができるかを模索して、実行していきたいと思えます。



また、この 2 年間、財政、機関誌、大会のスタイルなど、いろいろと新たな運営を模索して改革してきました。さらに、小規模である本学会の特徴を活かしつつ、隣接する領域の他学会との連携を強化するなどして改善を目指したいと思えますので、どうぞ院生など若い会員の方々からも、お気軽に幅広いご意見を賜りたいです。

どうかよろしくご協力のほどをお願いします。

2019 年 8 月吉日

★★★日本グループ・ダイナミックス学会 第 66 回大会開催の挨拶 ★★★

第 66 回大会準備委員会事務局長
黒川光流 (富山大学)

元号が改まり、様々な出来事に新鮮さを感じる一方、各地で地震や大雨等の災害も発生し、沈痛な思いもいたしております。皆様におかれましては、大きな被害に遭われることなく、新たな時代の幕開けを迎えておられることをお祈りいたしております。

さて、10 月 19 日 (土)・20 日 (日) に富山大学五福キャンパスにて第 66 回大会が開催されます。多くの皆様にとって馴染みが薄いと思われ富山での開催にあたり、どれだけの皆様にご発表いただけるか不安を感じ続けておりました。締め切りを 10 日間延長してお待ちいたしましたところ、例年の 7 割程度のお申し込みをいただくことができました。規模は大きくありませんが、例年同様多様な形式で研究発表をしていただきます。また、いくつかの企画も御用意いたしました。



富山市内から望む立山連峰

まず、昨年度の大会に引き続きまして、企業や各種団体の方々にポスター発表をしていただき、共同研究可能な研究者との出会いの場を提供するコラボ・リクエスト企画を実施いたします。今年度は3件のお申し込みをいただき、大会第1日目午後のポスター・セッション1で発表していただきます。是非足をお運びいただき、共同研究を実現していただければと思っております。

また、学会常任理事に入っております準備委員会では、「“ネット民”という集団のダイナミクスを探る」というタイトルのシンポジウムを企画いたしております。登壇者は高史明先生、笹原和俊先生、寺口司先生、三浦麻子先生、村本由紀子先生です。匿名可能で非対面のネット民に、集団として検討すべき事象が存在するのかという議論を通した、グループ・ダイナミクス研究の今後を探る機会になることを期待いたしております。

さらに大会2日目には、国際高等研究所フェローであり、京都大学名誉教授の木下富雄先生に、「GD学会のむかし・いま・これから」というタイトルで特別講演をしていただきます。学会の設立から現在までの経過について理解を深め、今後の学会のあり方について会員の皆様と考える機会になればと思っております。

懇親会は富山駅北側、オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)2階にごございます Q'z CAFEでの開催を予定しております。大会会場から公共交通機関を使って約20分かかりますが、懇親会後の富山を楽しんでいただくには便利な場所かと思えます。大会会場とは違った雰囲気でお楽しみください。

学会大会の時期は、富山の短い秋が終わる頃で、過ごしやすい気候なのではないかと思えます。天気が良ければ大会会場からでも立山連峰を見ていただくことができます。また富山では、いつでも日本海の旬の魚を楽しんでいただけます。参加を申し込んでおられない会員の皆様も、ご都合がございましたら当日ご参加いただけますと幸いです。富山大学五福キャンパスにて皆様にお目にかかれまことを、準備委員会一同、楽しみにいたしております。

今年もやります！「コラボ・リクエスト」

常任理事（渉外担当）
池田 浩（九州大学）

昨年度の神戸大学での学会大会より新企画「コラボ・リクエスト」を始めました。この企画の目的は、学会（発表）を通して、研究者とクライアントとのマッチングを行い、産学連携を中心とした共同研究へと展開していくきっかけを提供することでした。ここでいうクライアントとは、主に一般企業や NPO 団体、公的機関、研究所、他分野の研究者など様々な対象を指しており、我々が想像するよりも多くのクライアントが、グループ・ダイナミックスや社会心理学の観点からの学術的な助言を必要とし、また現場の問題を解決するために共同で研究に取り組む機会を求めています。こうした背景から、今年も 3 件の発表申込があり、いずれの発表も会員のみなさまの好奇心を刺激するものばかりです。

会員のみなさまには、ぜひコラボ・リクエストの発表に足をお運び頂き、クライアントが抱える問題に対してご助言やアドバイスをいただけないでしょうか。あるいは共同研究につなげて頂ければ、企画を主催する立場として嬉しい限りです。どうぞよろしく願いいたします。

コラボ・リクエストへの参加にあたって

熊野盛夫（金沢市議会議員）

人は、今を生きている。

かつては、こうだった。そう言われても、今を生きている。若者の投票率が下がっている。そう言われても、今を生きている。政治は生活に密着していると言われても、密着されている感覚はあまりない。けれど、今を生きている。

大きな、会場でのライブで、ステージに立つミュージシャンに観客は注目し、その歌に感動し、熱狂する。その時、いくらミュージシャンがステージで歌っても、音響システムや、それを操作する者が、いい仕事をしていないと、感動のステージは台無しになってしまう。

政治は、ある意味、この音響担当の仕事に似ている。いい仕事をして、あまり気に留められず、まるで水や空気のような存在として忘れ去られてしまう。（水道の水も、流れる川も、政治とは切っても切れない関係なのだが）けれど、暮らしのそこそこに政治は大きく関わっていることは、かつて、今も同じである。

なぜ？なに？の好奇心は人に「知る」ことを与え、さらなる探究心を喚起した。人々の暮らしの仕組みを議論し、決めていく政治の場も、かつての人々は大いに、なぜ？なに？の対象として、注目し、かかわった。どんなふうにかかわったのかといえば、投票することによって、だ。

しかし、現在、大きく、この政治とのかかわりである投票行動する人々が減少し、いわゆる投票率が低下している。特に、若い世代が。この原因について、政治そのものの劣化が原因なのか。また、若者世代の何かが原因なのか、あるいは、予測もつかない第3者的な何かが原因なのか、グループダイナミクス的な議論を求め、現存する若者の政治離れと投票率低下を打開する策を探りたいと思います。よろしくお願いいたします。

母校でのグルダイ大会開催によせて

垂澤由美子（甲南女子大学）

広報担当の杉浦淳吉先生から、母校での学会大会開催ということで何か書いてくれないか、ということでお話をいただきました。何でもいいということで思いついたことを書かせていただきます。

私が富山大学人文学部に在籍していたのは 1990 年代後半ですが、当時は社会心理学の先生はおられませんでした。私の入学した年度には改組があり、教養課程がなくなるとともに、教養課程専属の先生が集まっていくつかの新しい専攻が人文学部にできました（ちなみに教養部/課程の廃止は当時の潮流だったことをその後知るので）。新しくできた専攻の 1 つに心理学専攻があったと思います。当時は認知心理学の先生が 2 人いらっしゃいました。教育学部にも心理学の先生がいらっしゃいましたが、人格や発達がご専門だったと思います。そう考えると、富山大学での社会心理学ご専門の先生は、黒川光流先生が初めてなのではないでしょうか。

それから社会心理学に関係することとしては、藤原武弘先生が集中講義に来られていてそれを受講していたということがあります。このことが分かったのは数年前で、なんと 20 年近くも経っていました。たしか「人文学特殊講義」という科目名でした。自分が大学院生になり社会心理学を学ぶようになってから、「多数派影響や少数派影響の様子がわかるビデオを観てレポートを書いた。あのビデオは『十二人の怒れる男』だったのかな、藤原先生というのは関西学院大の武弘先生だったのだろうか」ということを思っていました。それから何年も経ち、ようやく数年前に学会で藤原先生とお話しさせていただく機会があり、伺ったところ、「富山大学には集中講義で行ったことがある」とのことでした。学部時代でも今につながる貴重な勉強ができていたことや予想が当たったことなどでうれしくなりました。

富山といえば「立山」や「魚」が有名です。立山の紅葉観光はマイカー規制で途中からバスでしか上がれないようになっていくのですが、そのあたりの紅葉とは別格でそれまで見たこともないような色鮮やかで多彩な景色にとっても感動した経験があります。私が行ったのは後期が始まる 9 月の下旬でしたが、10 月中旬でもまだ見れるのではないのでしょうか。もし行かれる場合には下界とは気温が違うと思いますので、1 枚上着を持っていかれた方が安心です。魚についての思い出としては、富山大学のわりと近くに回転寿司店があり、県外の友人などから「回転寿司なのにレベルが高い、さすが」と言ってもらえていたのですが、Google map によるとその店は今はもうないみたいです。でも同じような所は他にたくさんあるだろうと思います。

今回の学会大会は、開催元のお一人の先生と常任委員会が共同で準備されるという新しい開催形式をとっていると伺っています。黒川光流先生をはじめご準備にかかわっている方々のご尽力に感謝申し上げるとともに、富大（とみだい）での学会大会が例年にも増してご盛会なものになりますようお願い申し上げます。

☆☆☆新運営体制のご案内☆☆☆

2019年4月より新しい体制で本学会の運営を行っております。新体制発足時（本年4月）にグルダイメールマガジン（JGDA_Flash）でご案内しておりますが、その内容を再掲しながら、改めてご案内させていただきます。

会長

西田公昭（立正大学 / <http://ris-shinri.jp/i-04/>） <挨拶本誌巻頭>

事務局長

西道 実（武庫川女子大学 / <http://researchmap.jp/read0202749/>）

前期に引き続き事務局を担当することになりました。前期は本学会のサステナビリティを高めるために経費削減と事務作業のスリム化に取り組み、収支バランスは少し改善できたように思います。今期は、より安定した学会運営に向けて全力でサポートに取り組みます。

編集長

北村英哉（東洋大学 / <http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/faculty/soc/dspsc/professor/>）

学会誌『実験社会心理学研究』の編集長を務めることになりました。前代にかなり改革、整備され、Short Note などの新たなカテゴリーも十分生かして活性化できますようになるべく迅速な審査を心掛けたいと思います。副編集長と協力してスムーズに雑誌発刊と早期公開を含む Web 公開に取り組んで参ります。皆様の投稿をお待ちしておりますので、ご支援のほど、よろしく願いいたします。

副編集長

尾崎由佳（東洋大学 / <https://sites.google.com/site/yukaokzk/>）

北村編集長のサポートを務めます。よろしくお願いいたします。実験社会心理学研究は、私が学生時代に初めて論文を掲載してもらった学術誌です。そのため個人的な思い入れが深く、このたび編集作業に携わることで「恩返し」ができると嬉しく思っております。会員のみなさまの研究発表の場として、機敏かつ効果的なプラットフォームを提供できるように努めます。ぜひご投稿ください。

渉外担当

池田 浩 (九州大学 / <http://ikedah-lab.com/プロフィール/>)

「論文の国際化支援制度」と「国際学会発表支援制度」を主に担当します。いずれも会員の皆様の研究成果を発表することを支援する制度であり、会員の皆様が利用しやすいよう工夫されています。例えば「国際学会発表支援制度」は以前はアジア社会心理学会に限定されていましたが、現在は国際学会であれば学会は問いませんし、他の支援制度との併用も認められています。ぜひこの機会にご活用下さい。皆様の応募をお待ちしています。

大会担当

相馬敏彦 (広島大学 / <https://home.hiroshima-u.ac.jp/souman/>)

年次大会と役員選挙に関する業務を担当いたします。大会をお引き受けいただく開催校の先生のご負担が少しでも軽くなるようサポートすると同時に、その仕組みをつくっていきます。また、大会での優秀学会発表賞の選考も担当します。若手のみなさん、ぜひ狙いにきてください。加えて、役員選挙の際には、みなさまの学会へのコミットよろしく願いいたします。

広報担当

杉浦淳吉 (慶應義塾大学 / <http://jsugiura.eco.coccan.jp/>)

引き続き、広報を担当させていただきます。会報「ぐるだいニュース」、メールニュース「JGDA Flash」をはじめ、WEB サイト、SNS (Twitter)など、会員活動や成果、グループ・ダイナミックス研究の魅力を今まで以上に学会内外に発信していきたいと思えます。会員の皆さまからの情報、広報のアイデアなどもお寄せいただけたらと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

事務局補佐

村上史朗 (奈良大学)

前期に引き続き、西道事務局長のサポートをさせていただきます。前期は西道事務局長を中心に、ある程度予算のスリム化はできたと思えますが、コストカットばかりでは気が減入りますので、学会の魅力を高めるサポートができればと思えます。よろしく願いいたします。

広報補佐

鷓子修司

引き続き、杉浦広報担当の補佐を務めます。会報や JGDA Flash の配信を通して、学会の活動や研究成果を互いに共有し、また社会へと発信する、お手伝いができればと思えます。至らぬ点多々あるかと思えますが、なるべく迅速・正確な対応を心がけますので、どうぞよろしく願いいたします。

研究の国際化支援制度（英文校閲補助）について

この制度は、本学会会員の研究の国際化を支援するため、会員が自らの研究成果を英文誌に投稿する際の英文校閲代金の一部を補助するものです。昨年度（2018年度）は2名の会員への補助を行いました。今年度も引き続き募集しています。年齢の制限はありませんし、複数の論文校閲費を合算して申請できます。また、補助対象となった会員の方々についても、年度を超えれば改めて申請することが可能です。皆さま奮って申請してください。詳細については学会ホームページをご参照いただければ幸いです。よろしく願いいたします。

学会 HP：http://www.groupdynamics.gr.jp/support_international.html

国際学会発表支援制度について

この制度は、日本国外で開催される国際学会での発表支援を毎年度行うものです。申請締め切りの時点で発表予定のものだけでなく、すでに発表したものも支援対象となります。また、他学会の支援制度との重複受給も可能です。昨年度（2018年度）は8名の会員に対して支援を行いました。来年度の締め切りは7月31日（金）の予定です。詳細については学会ホームページをご参照いただければ幸いです。皆さまからの応募をお待ちしております。

学会 HP：<http://www.groupdynamics.gr.jp/support.html>

AASP 年会費 特別割引について

日本グループ・ダイナミクス学会（JGDA）の会員を対象に、アジア社会心理学（The Asian Association of Social Psychology：AASP）の年会費が割引かれます。

通常であれば「\$35US/1年間」または「\$65US/2年間」ですが、JGDA会員であれば、「\$25US [3,000円]/1年間（2020年度）」または「\$40US [5,000円]/2年間（2020年度・2021年度）」になります。AASP年会費の特別割引をご希望の方は、郵便局備付の払込取扱票に必要事項をご記入の上、2019年10月31日（木）までに所定の金額をご送金ください。

なお、レートによっては、お振り込み頂いた金額からAASPに年会費を送金したあと残高が生じます。これについては、学会員へのサービス（国際学会発表支援制度や国際化支援制度（英文校閲）など）の財源としてあてさせて頂く予定です。あらかじめご了承下さい。

■ 払込取扱票には、①～⑧の情報を英語でご記入下さい（氏名のみ日本語と英語の両方明記）

- ① 日本グループ・ダイナミクス学会会員番号
- ② Name
- ③ Email
- ④ Affiliation (所属)
- ⑤ Title (職種・職位)
- ⑥ Phone
- ⑦ Fax
- ⑧ Address (ジャーナルの送付先住所)：

■ **振り込みの口座は下記の通りです**

口座番号： 00910-3-277428

加入者名： 日本グループ・ダイナミックス学会

AASP への入会はシステムの都合上随時行うことができず、期日までにご送金いただいた方を対象にグルダイ学会事務局経由で取りまとめて行います。

以上、よろしく願いいたします。

実験社会心理学研究 2019 年度 59 巻 1 号 — 掲載予定論文

(2019 年 8 月発行予定／早期公開済み)

原著論文

■ 安藤香織、大沼 進、安達菜穂子、柿本敏克、加藤潤三

環境配慮行動における二者間の相互作用の検討：ペア・データ調査から

■ 雨宮有里、高 史明、杉山 崇

自伝的記憶の意図的および無意図的想起の検索過程：手がかり語法を用いて

資料論文

■ 上原 俊介、森 丈弓、中川知宏

親密な関係における怒りの感情表出と効果：生存時間分析による検討

■ 沓澤 岳・尾崎由佳

セルフコントロールのトレーニング法の開発とその効果検証

Short Note

■ Ryosuke Yokoi、 Kazuya Nakayachi

The effect of shared investing strategy on trust in artificial intelligence

■ Hirofumi Hashimoto

Interdependence in a Japanese Cultural Context: Distinguishing between Preference and Expectation

今年 4 月より編集委員会メンバーが更新されました。前期の編集委員会においては、投稿規定の改定や、投稿枠に Short Note を加えることなど、いくつかの新しい取り組みがスタートしました。今期の編集委員会の 1 年目としては、それらの取り組みを定着させ、ひきつづき円滑な運用ができるように努めたいと思います。

今期に入ってから論文投稿数は順調に伸びており、4月～7月の間に5本（うち原著1本、資料2本、Short Note2本）の新規投稿がありました。そのうちShort Note1本は既に掲載が決定しております。今後もひきつづき迅速な審査を心がけていく所存です。

「査読付き論文をできるだけ早く発表したい！」というご希望や、「英語論文の業績がほしい！（でも日本語で査読者とやりとりできると有難いなあ）」といったご期待を含め、会員の皆様のさまざまなニーズに応えられる学術誌となることを目指しております。まだ手探りのところもありますが、今後よりいっそう精進してまいります。会員のみなさまにおかれましては、もしお気づきの点やご提案などございましたら、忌憚ないご意見をお寄せください。そして、実験社会心理学研究へのご投稿を心よりお待ちしております。

本誌への投稿やその他に関する情報は、以下リンク先をご覧ください：

<http://www.groupdynamics.gr.jp/journal.html>

会員異動

新入会員 —— 12名（2019年度7月時点）

一般： 若林宏輔、大輪美沙

学生： 向井智哉、堀遼太郎、木田千裕、苫米地飛、頼政良太、佐藤大志、服部典利子、李 韻涵、山本佳祐、関雅利

退会会員 —— 15名（2018年度）

一般： 石井滋、天根哲治、小杉考司、青野篤子、横山博司、杉江修治、松井亮太、金山富貴子、本田周二、野呂千鶴子、今井恵利子、竹下 浩、伊東昌子

学生： 許 善花、仁科国之

★★★グルダイ学会関係連絡先 ★★★

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌等の未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。

また、論文投稿先・審査書類送付先も中西印刷株式会社となっております。詳細は下記をご覧ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

事務支局【入退会、住所・所属等変更、その他お問い合わせ先】

日本グループ・ダイナミクス学会 事務支局

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷 (株) 学会フォーラム内
TEL : 075-415-3661
FAX : 075-415-3662
E-mail : jgda@nacos.com

学会運営・対外業務関連

日本グループ・ダイナミクス学会本部事務局
〒 663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学 西道研究室
TEL : 0798-45-3530
E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連【論文投稿先・審査書類送付先】

日本グループ・ダイナミクス学会 編集事務局
〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷 (株) 営業部編集校正課内
TEL : 075-441-3155
FAX : 075-417-2050
E-mail : jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp

広報用 Twitter アカウント

本学会の活動をお伝えすべく、Twitter のアカウントを本学会の広報用として 2017 年 8 月より運用しております。 https://twitter.com/jgda_pr

大会の案内や論文の早期公開の情報などを発信するなどしております。Twitter ご利用の方、また使ってみたいとお考えの方、ぜひフォローしていただいて、本学会の広報を多方面にご紹介いただけますと幸いです。

広報関連【ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、書評、公募情報など】

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
慶應義塾大学文学部 杉浦淳吉研究室
E-mail : office@groupdynamics.gr.jp までお送りください。
(マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください)
杉浦淳吉(広報担当 常任理事)・鵜子修司(広報補佐員)